

2020年新しい日本写真学会活動について

新型コロナウイルス感染症災禍の影響と『学会活動の新しい様式』

日本写真学会の会員の皆様には日頃からご活動いただき、改めて感謝申し上げます。さて、これまでの2年間を振り返りますと、『合同年次大会』『カメラ技術セミナー開催』『高画質ディスプレイで見る天体写真』『文化財写真のデジタル化』『画像保存セミナー開催』『秋季大会（京都）』などに、多くの会員の方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。



しかしながら、2020年1月に突然、世界は、新型コロナウイルスの災禍に見舞われ、あらゆる経済活動、そして学会活動までが、停止に近い事態になってしまいました。日本においては4月に緊急事態宣言が発出され、会員の皆様やご家族の方々も、大変なご苦勞、ご心配をされたことと思います。

そのような状況下で、日本写真学会及び画像関連学会連合会（日本画像学会、日本印刷学会、画像電子学会、日本写真学会）は、この事態に対応した適切な学会活動方法を模索し、協議してまいりました。今年の国内の連合会年次大会（京都）、国際会議（ICAI20）（幕張）につきましては、学会事務局及び連合会幹事のメンバー、連合会代議員会議の各位が中心に対応いただきました。特に、国際会議であるICAI2020は米国IS&Tとの連携を取りながら、来年に開催を延期するという決定をいたしました。国内の合同年次大会は中止にしながらも、秋季は各学会が電子予稿の募集と発行を検討中です。ひとえに、会員の皆様とご家族様の安全第一として、方針を定めました（延期に伴う詳細のご案内・要領は、ホームページ（HP）をご覧くださいたくお願い申し上げます）。

日本写真学会も同時に、感染症リスクを避ける体制をいち早くとることとしました。各研究会内の打ち合わせ、事務局の外部交渉、役員理事会開催などは、2月よりWEB会議システムを取り入れました。当初不慣れなところも多々ありましたが、東京工芸大学及び東京工業大学の先生方のご協力によりシステムも安定し、WEB会議は浸透しております。

さて、秋以降さらには来年に向け、実際に『どういう学会活動を行っていくか』を現在鋭意検討しております。この感染症の問題は世界的にはまだ残存し続くものと考えています。したがって、『学会活動の新しい様式』が求められると思います。学会ではWEBセミナー開催の検討、電子予稿発行の検討、遠方（地方）から参加促進など学会HPを基点に全会員の皆様が引き続き参画しやすい環境を整えます。この機会に、参加しやすい、情報を得やすい学会の形を模索していきます。会員専用のページを作り、IDを入力し入る方法を検討中してまいります。写真や画像の学術情報のプレゼンや論文文化だけでなく、科学写真研究会、光機能材料研究会、天体写真、写真好きのための講演会（メーカー工場見学）など情報を学会誌やHPに掲載しますので是非ご覧くださいたくお願い申し上げます。

最後に会員皆様、ご家族のご健勝をお祈りし、今年の挨拶とさせていただきます。

日本写真学会会長 中野寧